

## 令和5年度第2回広島市公立大学法人評価委員会 会議要旨

### 1 開催日時

令和5年7月31日（月） 13:30～15:05

### 2 開催場所

広島市立大学サテライトキャンパス

### 3 出席者

#### (1) 委員

石田委員（委員長）、河原委員、原田委員、深井委員、深見委員（Web参加）

#### (2) 公立大学法人広島市立大学（全員 Web 参加、令和4年度業務実績の評価に入る前に退席）

若林理事長（学長）、田村理事（副学長）、渡辺理事（副学長）、金森理事（事務局長）、事務局次長（事）企画室長、総務室長

#### (3) 事務局

企画総務局長、行政経営部長、行政経営課長、行政経営課職員

### 4 議事

令和4年度における業務実績に関する評価について

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴人の人数

0名

### 7 会議資料名

(1) 資料1 広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(2) 資料2 令和4年度における業務実績に係る評価委員会委員からの質問に対する回答について

(3) 資料3 令和4年度における業務実績に関する項目別評価（総括表）

(4) 資料4 令和4年度における業務実績に関する評価表（小項目・大項目評価）

(5) 資料5 令和4年度における業務実績に関する評価表（全体評価）

(6) 参考資料1 公立大学法人広島市立大学の中期目標期間（令和4年度から令和9年度まで）における各事業年度の業務実績の評価について

(7) 参考資料2 関連法令

### 8 議事の概要

令和4年度における業務実績に関する評価を「A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。」と決定した。

### 9 発言要旨

(1) 小項目評価

ア 教育

（小項目⑤「教育方法等の改善（教育の質保証）」について）

(深見委員)

- ・ 教育基盤センターの開設に向けて準備を行ってきたことを評価した。

(石田委員長)

- ・ 教育基盤センターの取組は他の委員も高く評価していると思うが、小項目⑤については、今後の充実に期待する意味を込めて、評価委員会として「B」と評価してよいか。【異議なし】

(その他の項目)

(石田委員長)

- ・ 小項目①「全学共通教育」、小項目②「学部専門教育」、小項目③「大学院教育」、小項目④「特色ある教育」については各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

## イ 学生の支援と確保

(小項目⑥「学生の確保」について)

(河原委員)

- ・ 優秀な学生の確保を掲げているが、大学院の継続的な定員割れという状況を考えないといけない。

(石田委員長)

- ・ 学部の競争率などの数字も考慮する必要がある。

(深井委員)

- ・ 少子化による受験生の減少や大学院進学を目指す学生の減少傾向など社会的な問題も関係している。受験の倍率を上げるためには、他の大学との差別化を図り、市立大学で勉強したいと思わせるような教育をしていかなければならないが、今は少子化が進めば自然と受験生が減るような状況を考慮する必要がある。

(河原委員)

- ・ 一番気になるのは国際学部及び国際学研究科である。学部においては競争率が急激に下がっており、大学院は定員が充足できていない。国際学研究科に魅力を感じない学生が増えた影響で、国際学部の入試倍率が低下したと仮定すると、必ずしも単年度の問題ではないのではないか。国際学部、国際学研究科を卒業することによるメリットを明確に打ち出せるようにしていかないといけない。

(石田委員長)

- ・ 受験生の減少などは全国的な現象であり、市立大学だけの問題ではない。これからは市立大学で勉強することのメリットを積極的に打ち出し、大学のカラーを明確にしないと人が集まらない。
- ・ 小項目⑥については、評価委員会としては「A」と評価しつつ、全体評価のコメントにおいて「定員の充足・学生の確保について一層の努力を期待すること」、「市立大学の教育のカラーを明確に打ち出すこと」を強調したいと思うがよいか。【異議なし】

(小項目⑦「学生への支援」について)

(石田委員長)

- ・ 小項目⑦については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

## ウ 研究

(小項目⑧「研究活動の活性化」について)

(深見委員)

- ・ 理事長補佐を中心に研究推進に努めており、科学研究費申請率を向上させるため、「申請

書レビュー」を導入した点に関しては評価できる。しかし、活性化とまでは言えないと思う。

(石田委員長)

- ・ 様々な施策が実施されていることは評価できるが、十分な成果につながっているとは言えないので、今後の期待を込めて「B」と評価してよいか。【異議なし】

(小項目⑨「研究成果の積極的な公開及び還元」について)

(石田委員長)

- ・ 小項目⑨については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

#### エ 地域・社会貢献

(小項目⑩「地域連携及び産学官連携の推進」について)

(石田委員長)

- ・ 小項目⑩については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

(深井委員)

- ・ この項目については、市立大学として市民に対してもっとサービス精神がないといけないう観点で悩んだ。評価を悩んだということは知っておいていただきたい。

(小項目⑪「生涯学習ニーズ等への対応」について)

(石田委員長)

- ・ 小項目⑪については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

#### オ 平和

(小項目⑫「平和」について)

(深見委員)

- ・ 平和学研究科に関して、令和5年度は協定の締結や外国の若手研究者を対象とした広島短期滞在プログラムの創設など動きがみられるが、取組がルーティン化している面がある。

(石田委員長)

- ・ 設立2年目にコロナウイルスが流行し人的交流の面では大変厳しかったと思う。  
また、2022年から2023年にかけて国際平和が危機に瀕している状況でもあるので一段と平和学研究科に寄せられる期待も大きくなると予想される。  
期待の意も込めて「A」と評価してよいか。【異議なし】

#### カ 国際化

(石田委員長)

- ・ 小項目⑬「国際交流の推進」、小項目⑭「日本人学生及び留学生への支援の充実」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

#### キ 業務運営の改善及び効率化

(石田委員長)

- ・ 小項目⑮「戦略的、機動的かつ効率的な運営体制の構築及び運営の実施」、小項目⑯「社会に開かれた大学づくりの推進」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

#### ク 財務内容の改善

(石田委員長)

- ・ 小項目⑰「財務内容の改善」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

ケ 自己点検、評価及び情報の提供

(石田委員長)

- ・ 小項目⑱「自己点検、評価及び情報の提供」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

コ その他業務運営

(石田委員長)

- ・ 小項目⑲「その他業務運営」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

(2) 大項目評価

(大項目⑤「平和」について)

(石田委員長)

- ・ 「国際平和が危機に瀕している状況でもあるので、平和研究の進展を期待したい」というコメントを補足した上で、評価委員会として「A」と評価してよいか。【異議なし】

(その他の項目)

(石田委員長)

- ・ 大項目①「教育」、大項目②「学生の確保と支援」、大項目③「研究」、大項目④「地域・社会貢献」、大項目⑥「国際化」、大項目⑦「業務運営の改善及び効率化」、大項目⑧「財務内容の改善」、大項目⑨「自己点検・評価及び情報の提供」、大項目⑩「その他業務運営」については、各委員の評価が一致するため評価どおりとしてよいか。【異議なし】

(3) 全体評価

(石田委員長)

- ・ 大項目評価の結果を評価基準に照らすと、業務実績に関する全体評価は「A」となるが、どうか。【異議なし】

(4) その他

(石田委員長)

- ・ 令和4年度における業務実績に係る評価結果については、最終的に各委員からのコメント等を参考に、全体評価としての委員長コメントを作成することになっているが、この文面については、委員長への一任としてよいか。【異議なし】
- ・ 全体評価コメントにおいては、学生の確保について、市立大学の特色のある教育を明確に打ち出し、学生の確保につながる努力をしていただきたいという内容と、平和研究について、現在の世界情勢を踏まえたうえで、一層の発展に尽力していただきたいという内容を記載したいと思う。

以上